

名古屋記念病院

山村 三輪 福岡

義孝 高也 伴樹
外科系顧問
消化器外科部長
消化器外科医長



取材・文

読売新聞中部支社 前編集委員
医療コーディネーター

片岡 太

名古屋記念病院 胃がん治療への取り組み

名古屋記念病院(名古屋市天白区平針、藤田民夫院長)は、胃がんを含む消化器疾患の診療に意欲的に取り組んでいる中で、日本胃癌学会会長を務めるなど消化器外科分野で高い臨床実績を誇る山村義孝・愛知県がんセンター中央病院消化器科外科前部長を顧問に招き、さらなる充実を図っている。また、患者さんに対する治療負担を軽くし、胃の機能を温存するといった優しい医療にも意欲的に取り組み、大きな成果を上げている。

胃がんの治療法や予防法などについて山村顧問、消化器外科の三輪高也部長、福岡伴樹医長に話を聞いた。

Q.胃がんは、増加が著しく、死亡率の高い肺がんなどほかのがんに目が向くようになったためか、「胃がんはそんなに心配することはない」といった声もあります。本当でしょうか。

山村顧問／その答えの前に全がんの患者数のデータをもとにお話しすると、胃がんになる患者さんは年間10万人を超えています。このことからいっても決して今指摘されたような「胃がんは心配ない」と言ったことはなく、依然として胃がんは怖いがんです。その点を誤解しないようにしてほしいですね。

Q.胃がんで亡くなる人は年間どのくらいいますか。

山村顧問／5万人前後とかなり多いのが実情です。

Q.このことから「胃がんは怖いがん」ということが改めて分かりました。

山村顧問／その通りで、胃がんの怖さを認識してほしいですね。

Q.早期発見の重要性が言われていますが、全国的に見て、早期がんと進行がんとはどちらが多いですか。

山村顧問／まだまだ進行がんの方が多いですね。

Q.名古屋記念病院での胃がんの生存率はどうなっていますか。

福岡医長／がんの進行度(ステージ)を3年生存率で見ると、早期の段階のステージⅠでは90%、ステージⅡでは70数%、ステージⅢだと50数%とステージが進むにつれて生存率は低くなり、ステージⅣになると10%以下になります。

Q.その治療成績はかなり良いのではないですか。

三輪部長／胃がんに対する名古屋記念病院の3年生存率の成績は、がんセンターや大学病院と比べてもそんな色のない治療成績だと自信を持っています。

山村顧問／名古屋記念病院の胃がんの治療成績は、今三輪部長が言ったようにがんセンターなどがんに対する高度医療を